



質問

「仁多米」の定義・基準は

町長

町内で栽培された米が仁多米



子どもたちの田植



子どもたちの稲刈り

石原 武志 議員

質問 持続可能な特産品「仁多米」栽培の為に専門学校や研究施設との連携が必要と思う、町や会社の方向性は。

町長 現状コシヒカリが作り難くなっており、高温耐性米へ品種の切り替えが必要にもなっている。町単独での研究機関

連携等は多額の費用が見込まれ困難。今後は県推奨の「つや姫」等、販路の確保が出来る品種を検討していきたい。

質問 作付け面積や農家戸数減少の対策としてスマート農業の推進は現状どのようか、また効果は。

町長 ドローンやリモコン草刈り機の利が増えており、阿井地区では水管理システムのの実証にも取り組まれている。農業従事者の減少対策に農業の維持管理と保全や省力化を図る国・県の制度事業を活用し積極的に推進していく。また農地耕作条件改善事業も同様に進めていく。

質問 「仁多米カントリーエレベーター」への期待は年々増加している。販路拡大やブランド米育成への戦略は。

町長 消費者に信頼される安全・安心な米作りを推進することが重要と考える。良質米を生産し多くの消費者に選んでいただく事がブランド

力になると思っています。

質問 三セクの統合に合わせ人材を確保し作付けや経営指導、販売品目の多様化を図り、結果として農業所得の向上につながるよう改善すべきでは。

町長 現在期間限定ではあるが町の特産品販売や仁多米とのセット販売も実施している。JAや県農業部普及員と連携し引き続き良質米の生産を支援し、農家所得の向上に努めていく。農業関係の三セクは農業所得の向上を一番に事業を進めている。